

## 映画『SNOWGIRL』製作報告

監督・脚本・編集 山下大裕

### ◆製作に至る経緯

口先だけで「映画監督になりたい」と言っているのも何も始まらないと思い、20歳の冬に私の原点である地元福井県敦賀市で初監督作品を撮ることにしました。

映画『SNOWGIRL』は、今ここに生きていることへの感謝の気持ちを伝えたいという思いで企画を立ち上げました。メインロケ地を地元敦賀に設定した理由は、単にロケーションが良いからということだけではなく、自身の映画人生のスタートを切るのに最もふさわしい場所だと思ったからです。

本作の製作が決定したのは2012年10月です。私と幼稚園・高校が一緒で、かつて子役として俳優活動を行っていた双子の姉妹、縄手麻里・梨乃が短い物語を書き「こんな話面白そうじゃない?」と言って私に見せてくれました。内容に惹かれた私は、これを原案に彼女ら主演の映画を撮りたいという思いが湧いてきました。そこから本格的に映画製作の準備が始まりました。

同12月、脚本を書きつつキャスティングやスタッフリングを進めていきました。私は自主映画といえども単なる学生のお遊びにはたくありませんでした。

本気でプロを目指している以上、私は自主映画もその道に繋がっているべきだと思ったので、企画当初から撮って終わりではなく、観客にお金を払って観てもらおうということ意識して作品と向き合ってきました。

その上で予算面では厳しくとも、他の面では極力プロに準じた形で進めていくよう心掛け、スタッフリングの際もこの点に理解のある同期や後輩らに声を掛けていきました。結果、少数ながらも熱のあるメンバーが集まりました。

### ◆資金集めの苦労

お金があればいい映画が撮れるという訳ではないにしても、やはり映画製作にお金は必要となってきます。私は大学の講義の合間にイベントスタッフのアルバイトをしていました。しかし撮影実習の期間に入ると仕事との両立が厳しくなり、アルバイトでの収入はせいぜい生活費の足しになる程度でした。

ただ一方で、映画資金を集めるためアルバイトに徹することになると、あっという間に卒業を迎えてしま

やました・だいすけ 当協会学生会員、日本映画大学



映画『SNOWGIRL』

2013年/日本/62分/カラー/シネマスコープ  
監督/脚本/編集 山下大裕  
出演:縄手梨乃、縄手麻里、油木田一清、瑠美子、高橋光宏、入村朱美(友情出演) 原案:縄手麻里 縄手梨乃  
撮影:岡田凌 照明:田村麻衣 録音:白沢文晴 助監督:発智新太郎 制作:池松和沙 黒沼優大 高果雄太  
タイトルロゴデザイン:山梨豊 音楽:中野新部 主題歌:  
KEISUKE MURASHIMA 制作:DYC  
公式ホームページ: <http://snowgirl-movie.com>  
<上映実績>  
・2013年4月8日・9日 完成披露上映会 In 東京  
・2013年5月26日 完成披露上映会 In 敦賀

### <撮影期間>

クランクイン: 2013年2月13日  
【東京ロケ3日、移動無休日1日、敦賀ロケ8日】  
クランクアップ: 2013年2月24日  
完成: 2013年3月23日  
使用カメラ: キヤノン EOS 60D

うのではないかとという危機感もありました。時間のある学生時代にアクションを起こすことが大事だと思っていたので、これでは本末転倒であると判断し他の案を考えることにしました。

私は自分の企画にはとにかく自信と誇りがあり、絶対良いものができると思っていた。そこで、企画に賛同された方から協賛を募るという形で何とかならないかという発想が浮かびました。

同期の友人には「学生の自主映画で協賛なんて…」と冷やかに笑われることもありましたが、動き出すとなればそんなことを気にしている暇などありません。

自分でデザインした協賛募集のチラシを3500部刷り、地元の店舗や公共施設に置いてもらったり、学生時代の恩師やこの2年間でお世話になった映画関係の



映画『SNOWGIRL』フライヤー

方々に手紙を書いたり、直接会いに行ったりして協賛を募りました。また近年話題になっているクラウドファンディングにも興味があったので、思い切って挑戦してみることにしました。

人様からお金をいただくということは、よっぽどのことなのだと思自も分かっているつもりでしたが、実際に資金集めをする中でそれをより深く思い知らされました。クラウドファンディングにしても最終的には目標金額を達成しましたが、期間中なかなか資金が集まらず焦りと不安を覚えました。

本作は敦賀ロケを行うということで地元からの協賛が大部分を占めたのですが、もしこれがオール都内ロケの作品だったならば資金集めはまず破綻していたと思います。今回は何とか救われましたが、やはり考えが甘過ぎました。資金集めの方法や作品を売り込む工夫については、次回以降もっとよく考えるべき点だと感じています。

### ◆現場での苦労

3日間の東京ロケは応援スタッフの力やスケジュールの余裕もあり比較的調子に進みました。問題は敦賀です。敦賀ロケでは、私も含めてスタッフが常時7~8名という態勢でした。また予算の関係上滞在期間にも限りがあったため、38シーンを8日間で撮ることになっており、経験の浅い我々にとって厳しい現場となりました。その上、最初の3日間は雪が降らず、『SNOWGIRL』と題しておきながら雪景色のない作品になってしまうのではないかと笑えない状況でした。雪が降らなかった時の対策についてはイン前にも話



撮影風景、右が筆者

し合いましたが、この人数とスケジュールを踏まえたいい案が見つからず、スタッフ一同「雪は降るんだ!!」と妙に強気になって敦賀に向いてしまいました。

しかし雪が降らないので、前半は天候が影響しないロケセットでの撮影を主に行いその場をしのいでいました。もうこれ以上持てないところまででも変わらない空模様で諦めていた4日目の朝、なんとその時期にしては珍しい大雪が敦賀の地に降りました。本当にこんなことがあるのかと驚きつつも、天に感謝する思いで雪の中ロケに臨みました。

毎度このようなことではいけないと思いますが、本作は数々の運に恵まれ無事完成を迎えることができました。4日目に降った雪は敦賀の今年最後の雪でした。まさに映画の神様に救われる思いでした。

### ◆映画を1本撮り終えて

自主制作の小さな作品ではありますが、企画から上映まで映画作りのプロセスを踏んでいく中で学んだことは多いです。決して慢心している訳ではありませんが、今回の制作を終えて自分の中でまた一つ自信をつけることができました。次はもっと大きなことにも恐れず挑戦できると確信しています。

また、完成作品については次への課題こそたくさんあるものの、一つの映画作品としてしっかり仕上げることができたと思います。現場でも当時の自分にできる最大限のことを尽くした作品なので後悔はありません。これからもっと数を重ね、精度を上げていきます。今は学生ですが1年半後には映画の世界に飛び込んでいきますので、皆様どうぞよろしくお願ひします。

### 山下大裕

1992年生まれ、福井県敦賀市出身。高校卒業後、映画監督を志し日本映画大学1期生として入学(現在映画学部映画学科3年脚本演出コース在籍)。映画制作団体DYC主宰。20歳の冬に『SNOWGIRL』を監督。日頃は自主映画の制作や商業映画の美術応援・制作部として現場に参加している。当協会学生会員